



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(公) 043 (222) 7207 番

97.5.22 No. 4601

## 労基法全面改悪に向けた「女子保護規定撤廃法」の成立計は

二〇日、女性の深夜・時間外・休日労働を規制している労基法の女子保護規定撤廃を盛り込んだ「雇用機会均等法の整備法案」が、自民・新進・民主・社民・太陽の賛成多数で衆議院を通過した。衆院労働委員会での審議はわずか四日で打ち切られた。実質的な審議ひとつなしに労働者の労働条件の最低基準・権利を定めた労基法の本質的見直しを全面的に阻んだ。これが開かれたということだ。

これは、米軍用地特措法の改悪に続く暴挙である。翼賛国会状況のもとで、国家と国民生活のすみずみに及ぶ転覆が次々と進められようとしている。女子保護規定撤廃を許さず、労基法の全面解体を阻止しよう！

### わずか四日間で

日本資本主義は、「女工哀史」や「あゝ野麦峠」に描かれた凄惨な奴隷的労働に女性労働者をかりたてることによつて、その基礎を築いてきた。以降敗戦まで、日本における女性の地位は、まさに地に墮としめられたものであった。

敗戦後の労働者の闘いの巨大なうねりのなかで生まれ、現在に至る労働基準法―女子保護規定は、言うまでもなく大きな欠陥をもつものだ。しかしこれは、営々たる闘いのなかで形成されてきた血と汗の地平でもある。それが、わずか四日間の「審議」のなかで解体されようとしているのだ。しかも、「女子保護規定の撤廃は男女平等に好ま

しい」などと言う論理に連合や社民党までもが膝を屈し、労働者の権利の全面的な剥脱が当然のことのようにまかり通っている。共産党も形ばかりの反対の声をあげるだけである。

労働基準法と憲法は、不可分の関係をなすものだ。労基法の改悪は憲法改悪に通ずる。そればかりではない。労働者の権利の全面的剥脱と「富国強兵」はつねに一体のものである。女子保護規定撤廃―労基法改悪は、労働者に大失業と戦争を強制する重大な攻撃だ。

### 致命的な打撃！

女子保護規定の撤廃は、女性労働者にさらなる無権利と低賃金、差別の拡大、地位低落を強制するものだ。そのみならず、母性や健康は破壊され労働者家族に回復しがたい被害を与えることになるだろう。

現在ですら、「青天井の残業方式」と世界から指弾される日本の長時間労働の現実のなかで、家事や育児の負担を負い、深夜業や長時間労働に耐えられない女性は退職せざるを得なくなる。それでも働く必要のある女性は、派遣やパート労働など、いつでも「出入り自由」な無権利労働者として働かざるを得なくなる。深夜勤務を含む交替制の場合、日勤勤務に就く者に比べ、切迫流産は二一・五%に対し三二・〇%、異常出産は三九・七%に対し六六・六%にも達すると言います。まさに、女子保護規定撤廃は致命的な誤りだ。

### 労基法全面解体

しかも、これを突破口として、労働省はこの七月にも、①変形勤務や裁量労働制(みなし労働制)の拡大、②有期限の短期雇用契約の合法化、③労働者派遣事業の規制緩和、④民間有料職業紹介事業の自由化等、労基法の抜本的改悪に向けた中間報告を出そうとしている。

そればかりではない。日経連は政府に対し、八時間労働制の撤廃や労基法違反に対する罰則規定の撤廃さえ要請しているのだ。さらには、労基法ばかりではなく、労組法や労働関係調整法の改悪、労働三権(団結権・団体交渉権、争議権)の解体を狙う攻撃が強まっている。

しかも医療保険制度の改悪や年金制度改悪、介護保健法の制定など、社会保障制度の解体攻撃が追い打ちをかけることになり、まさに、規制緩和の名のもとに、大失業と諸権利の一切を暴力的に解体する攻撃が労働者を襲おうとしている。

### 光り輝く国？

競争原理が礼賛され、弱肉強食の論理が世の中を支配しようとしている。「光り輝く国をめざして」と題された行政改革委員会規制緩和と小委員会の報告書は、「既に多くの分野では、このような甘えを脱し、熾烈な競争のなかで生き残りをかけた戦いを日々行なっている。……蛙は熱湯に放り込まれれば、鍋

から飛び出す、水からゆで上げられればそのまま昇天する。日本がゆで蛙にならないよう終戦すべき」と記している。国民を規制緩和という熱湯に放りこんで、熾烈な競争社会に駆り立てようと言うのだ。

### 戦争政策と一体

われわれは、こうした攻撃が安保大改悪―「日米防衛協力の指針」(ガイドライン)見直しを軸とした戦争政策と一体のものであることを忘れてはならない。橋本行革の中心課題には、「安保存革」とも言うべき権力機構の改編強化が示えられている。国家権力の役割は、軍事・外交と治安にもつぱら集中させ、資本には首切りと搾取の自由を与え、労働者からは一切の権利を剥脱する。――これが行革・規制緩和攻撃の狙いだ。女子保護規定の撤廃はその突破口である。女子保護規定撤廃―労働基準法の全面解体を阻止しよう。

「菅野やすし市長選必勝、決戦突入支援労組決起集会」  
日時 五月三〇日(金)  
一八時―一九時三〇分  
場所 千葉市民会館  
地下小ホール